

大学番号 私立27

注3

設置年度 令和 3年度
計画の区分： 学部の学科の設置
注1

届出

作新学院大学 人間文化学部 発達教育学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 船田教育会
令和3年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	総務課
職名・氏名	カチョウ カワタ ユタカ 課長・川田 豊
電話番号	028-667-7111
（夜間）	028-670-3600
F A X	028-667-7110
e-mail	soum@sakushin-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途届出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

人間文化学部

＜発達教育学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	2
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	34

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 船田教育会

(2) 大学名

作新学院大学 (発達教育学科)

(3) 調査対象大学等の位置

〒321-3295

栃木県宇都宮市竹下町下東原908番地の4

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フナダ ハジメ) 船田 元 (平成13年3月22日)		
学長	(ワタナベ ヒロシ) 渡邊 弘 (平成29年4月1日)		
学部長	(タマキ カナメ) 玉城 要 (平成29年4月1日)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
人間文化学部 発達教育学科 学士(人間文化学)	教育学・保育学関係	4年	50人	年次0人	200人	新規入学者を募集中	既存の人間文化学部人間文化学科を募集停止し、人間文化学部発達教育学科を設置

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	50 (-) [-]	人	50 (-) [-]	人	50 (-) [-]	人	50 (-) [-]	人	0.77	一倍	
志願者数	55 (-) [0]	() []	77 (-) [1]	() []	100 (-) [0]	() []	79 (1) [0]	() []			
受験者数	53 (-) [0]	() []	70 (-) [1]	() []	99 (-) [0]	() []	78 (1) [0]	() []			
合格者数	53 (-) [0]	() []	68 (-) [0]	() []	92 (-) [0]	() []	75 (1) [0]	() []			
B 入学者数	32 (-) [0]	() []	37 (-) [0]	() []	54 (-) [0]	() []	31 (1) [0]	() []			
入学定員超過率 B/A	0.64		0.74		1.08		0.62				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備考					
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期						
1年次	33 [-] (-)	[] [] ()	37 [-] (-)	[] [] ()	54 [-] (-)	[] [] ()	31 [-] (-)	[] [] ()	令和2年度2年次生 編入生1名							
2年次	/		26 [-] (-)	[] [] ()	35 [-] (-)	[] [] ()	50 [-] (-)	[] [] ()								
3年次			/		/		25 [-] (-)	[] [] ()			35 [-] (-)	[] [] ()				
4年次							/				/		/		24 [-] (-)	[] [] ()
計															33 [-] (-)	63 [-] (-)

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	33 人	0 人	平成30年度	0 人	人	
令和元年度	63 人	3 人	平成30年度	3 人	人	他の教育機関への入学・転学3名
			令和元年度	人	人	
令和2年度	114 人	2 人	平成30年度	1 人	人	就職
			令和元年度	1 人	人	除籍
			令和2年度	人	人	
令和3年度	140 人	5 人	平成30年度	1 人	人	除籍
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	4 人	人	除籍1名、就職2名、経済上の理由1名
			令和3年度	人	人	
合計		10 人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{33} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{63} = \boxed{4.76} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{114} = \boxed{1.75} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{140} = \boxed{3.57} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目／ 発達教育系科目／ 中等教育専門科目	日本語学概論A	1-2前	2			1						
	日本語学概論B	1-2後	2			1						
	日本語文法A	1-2前		2		1						
	日本語文法B	1-2後		2		1						
	文章表現法	2-3後	2									兼1
	日本人の言語史A	2-3前		2								兼1
	日本人の言語史B	2-3後		2								兼1
	日本文学史A	1-2前	2									兼1
	日本文学史B	1-2後	2			1						
	日本文学史C	2-3前		2								兼1
	日本文学史D	2-3後		2								兼1
	日本古典文学研究A	2-3前		2								兼1
	日本古典文学研究B	2-3後		2								兼1
	日本近代文学研究A	2-3前		2								兼1
	日本近代文学研究B	2-3後		2								兼1
	日本近代文学研究C	2-3前		2								兼1
	日本近代文学研究D	2-3後		2								兼1
	漢文学概論A	1-2前	2			1						
	漢文学概論B	1-2後	2			1						
	書道A	1-2-3前	1									兼1
	書道B	1-2-3後		1								兼1
	国語科教育法1	2前	2									兼1
	国語科教育法2	2後	2									兼1
国語科教育法3	3前	2									兼1	
国語科教育法4	3後	2									兼1	
教育実習事前事後指導(中・高)	4前	1			1							
高等学校教育実習	4前	2			1							
中学校教育実習	4前	4			2							
専門教育科目	専門演習A	2前	2			2	1					兼4
	専門演習B	2後	2			3						兼5
	専門演習C	3前	2			2	1					兼4
	専門演習D	3後	2			3						兼5
専門教育科目	卒論指導演習1	4前	2			5	1					兼8
	卒論指導演習2	4後	2			5	1					兼8
	卒業論文	4後	8			5	1					兼8
	小計(91科目)	-										
	合計(177科目)	-										
卒業要件及び履修方法												
卒業要件 学生は、当該学部の定める次の区分により授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。 ア. 共通教育科目は、必修科目を含め40単位以上 イ. 専門教育科目は、必修科目を含め97単位以上 履修方法 履修科目の登録の上限：年間44単位(半期22単位)まで												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目／ 発達教育系科目／ 中等教育専門科目	日本語学概論A	1-2前	2			1						
	日本語学概論B	1-2後	2			1						
	日本語文法A	1-2前		2		1						
	日本語文法B	1-2後		2		1						
	文章表現法	2-3後	2							1		兼1
	日本人の言語史A	2-3前		2								兼1
	日本人の言語史B	2-3後		2								兼1
	日本文学史A	1-2前	2									兼1
	日本文学史B	1-2後	2			1						
	日本文学史C	2-3前		2								兼1
	日本文学史D	2-3後		2								兼1
	日本古典文学研究A	2-3前		2								兼1
	日本古典文学研究B	2-3後		2								兼1
	日本近代文学研究A	2-3前		2								兼1
	日本近代文学研究B	2-3後		2								兼1
	日本近代文学研究C	2-3前		2								兼1
	日本近代文学研究D	2-3後		2								兼1
	漢文学概論A	1-2前	2			1						
	漢文学概論B	1-2後	2			1						
	書道A	1-2-3前	1									兼1
	書道B	1-2-3後		1								兼1
	国語科教育法1	2前	2							1		
	国語科教育法2	2後	2							1		
国語科教育法3	3前	2							1			
国語科教育法4	3後	2							1			
教育実習事前事後指導(中・高)	4前	1			1							
高等学校教育実習	4前	2			1							
中学校教育実習	4前	4			2							
専門教育科目	専門演習A	2前	2						3			兼4
	専門演習B	2後	2						3			兼5
	専門演習C	3前	2						3			兼4
	専門演習D	3後	2						3			兼5
専門教育科目	卒論指導演習1	4前	2						3	1		兼4
	卒論指導演習2	4後	2						5	1		兼4
	卒業論文	4後	8						5	1		兼3
	小計(91科目)	-										
	合計(177科目)	-										
卒業要件及び履修方法												
卒業要件 学生は、当該学部の定める次の区分により授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。 ア. 共通教育科目は、必修科目を含め40単位以上 イ. 専門教育科目は、必修科目を含め97単位以上 履修方法 履修科目の登録の上限：年間44単位(半期22単位)まで												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目／発達教育系科目／中等教育専門科目	日本語学概論A	1-2前	2			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	日本語学概論B	1-2後	2			1						
	日本語文法A	1-2前	2	2		1						
	日本語文法B	1-2後	2	2		1						
	文章表現法	2-3後	2								1	
	日本人の言語史A	2-3前	2	2								
	日本人の言語史B	2-3後	2	2								
	日本文学史A	1-2前	2									
	日本文学史B	1-2後	2			1						
	日本文学史C	2-3前	2	2								
	日本文学史D	2-3後	2	2								
	日本古典文学研究A	2-3前	2	2								
	日本古典文学研究B	2-3後	2	2								
	日本近代文学研究A	2-3前	2	2								
	日本近代文学研究B	2-3後	2	2								
	日本近代文学研究C	2-3前	2	2								
	日本近代文学研究D	2-3後	2	2								
	漢文学概論A	1-2前	2	2		1						
	漢文学概論B	1-2後	2	2		1						
	書道A	1-2-3前	1									
書道B	1-2-3後	1										
国語科教育法1	2前	2	2									
国語科教育法2	2後	2	2									
国語科教育法3	3前	2	2									
国語科教育法4	3後	2	2									
教育実習事前事後指導(中・高)	4前	1	1		1							
高等学校教育実習	4前	2	2		1							
中学校教育実習	4前	4	4		2							
専門教育科目	専門演習A	2前	2			2	1					兼4
	専門演習B	2後	2			3						兼5
	専門演習C	3前	2			2	1					兼4
	専門演習D	3後	2			3						兼5
専門教育科目	卒論指導演習1	4前	2			5	1					兼8
	卒論指導演習2	4後	2			5	1					兼8
	卒業論文	4後	8			5	1					兼8
小計(91科目)	-											
合計(177科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業要件 学生は、当該学部の特定期間の区分により授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。 ア. 共通教育科目は、必修科目を含め40単位以上 イ. 専門教育科目は、必修科目を含め97単位以上 履修方法 履修科目の登録の上限:年間44単位(半期22単位)まで												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目／発達教育系科目／中等教育専門科目	日本語学概論A	1-2前	2			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	日本語学概論B	1-2後	2			1						
	日本語文法A	1-2前	2	2		1						
	日本語文法B	1-2後	2	2		1						
	文章表現法	2-3後	2								1	
	日本人の言語史A	2-3前	2	2								
	日本人の言語史B	2-3後	2	2								
	日本文学史A	1-2前	2									
	日本文学史B	1-2後	2			1						
	日本文学史C	2-3前	2	2								
	日本文学史D	2-3後	2	2								
	日本古典文学研究A	2-3前	2	2								
	日本古典文学研究B	2-3後	2	2								
	日本近代文学研究A	2-3前	2	2								
	日本近代文学研究B	2-3後	2	2								
	日本近代文学研究C	2-3前	2	2								
	日本近代文学研究D	2-3後	2	2								
	漢文学概論A	1-2前	2	2		1						
	漢文学概論B	1-2後	2	2		1						
	書道A	1-2-3前	1									
書道B	1-2-3後	1										
国語科教育法1	2前	2	2									
国語科教育法2	2後	2	2									
国語科教育法3	3前	2	2									
国語科教育法4	3後	2	2									
教育実習事前事後指導(中・高)	4前	1	1		1							
高等学校教育実習	4前	2	2		1							
中学校教育実習	4前	4	4		2							
専門教育科目	専門演習A	2前	2			3	1					兼3
	専門演習B	2後	2			2						兼6
	専門演習C	3前	2			3	1					兼3
	専門演習D	3後	2			2						兼6
専門教育科目	卒論指導演習1	4前	2			5	1					兼9
	卒論指導演習2	4後	2			5	1					兼9
	卒業論文	4後	8			5	1					兼9
小計(91科目)	-											
合計(177科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業要件 学生は、当該学部の特定期間の区分により授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。 ア. 共通教育科目は、必修科目を含め40単位以上 イ. 専門教育科目は、必修科目を含め97単位以上 履修方法 履修科目の登録の上限:年間44単位(半期22単位)まで												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 ／ 初期導入・リテラシー教育科目	基礎ゼミナール1	1前	2			3						兼2
	基礎ゼミナール2	1後	2			2	1					兼2
	英語A1(文法・語彙)	1前	1									兼3
	英語A2(文法・語彙)	1後	1									兼3
	英語A3(英文講読)	2前	1									兼4
	英語A4(英文講読)	2後	1									兼4
	英語B1(コミュニケーション)	1前	1									兼3
	英語B2(コミュニケーション)	1後	1									兼3
	英語B3(コミュニケーション)	2前		1								兼1
	英語B4(コミュニケーション)	2後		1								兼1
	日本語A1a	1前		1			1					兼1
	日本語A1b	1前		1								兼1
	日本語A2a	1後		1			1					兼1
	日本語A2b	1後		1								兼1
	日本語A3a	2前		1								兼1
	日本語A3b	2前		1								兼1
	日本語A4a	2後		1								兼1
	日本語A4b	2後		1								兼1
	日本語B1	1前	1									兼1
	日本語B2	1後	1									兼1
	日本語B3	2前	1				1					兼1
	日本語B4	2後	1				1					兼1
	日本語表現法1	1前	2				1					兼1
	日本語表現法2	1後		2			1					兼1
	コンピュータリテラシー1	1前	2				2					兼2
	コンピュータリテラシー2	1後		2								兼4
	スポーツ科学実技A1	1前	1									兼4
	スポーツ科学実技A2	1後	1									兼4
	スポーツ科学実技B	1-2前		1								兼1
	スポーツ科学実技C	1-2後		1								兼3
	キャリアデザイン1	1後	2									兼1
	キャリアデザイン2	3前・後	2									兼1
	ブレインシップ	2前・後	2				7	1				兼20
インターンシップ	3前・後	2									兼5	
共通教育科目 ／ 教養教育科目	哲学	1-2前	2									兼1
	心理学	1-2前	2			1						兼1
	歴史学	1-2前	2									兼1
	文学	1-2後	2									兼1
	デザイン論	1-2後	2			1						兼1
	憲法入門	1-2後	2									兼1
	マスコミ論	1-2後	2									兼1
	数学	1-2前	2			1						
	統計学1	1-2前	2			1						
	統計学2	1-2後	2			1						
	環境論	1-2後	2									兼1
	情報と社会	1-2前	2									兼1
	科学・技術論	1-2前	2									兼1
	ジェンダー論	1-2後	2									兼1
	健康・スポーツ概論	1-2前	2									兼1
	現代社会の諸問題A	1-2前	2									兼1
	現代社会の諸問題B	1-2前	2			1						兼1
	現代社会の諸問題C	1-2前	2									兼1
	とちぎ学	1-2後	2									兼2
	日本事情A	1-2前	2			1						
	日本事情B	1-2後	2			1						
	初級フランス語1-1	1前	1									兼1
	初級フランス語1-2	1後	1									兼1
	初級フランス語2-1	2前	1									兼1
	初級フランス語2-2	2後	1									兼1
	中級フランス語1	3-4前	1									兼1
	中級フランス語2	3-4後	1									兼1
	初級中国語1-1	1前				1						
	初級中国語1-2	1後				1						
	初級中国語2-1	2前				1						
	初級中国語2-2	2後				1						
	中級中国語1	3-4前				1						
	中級中国語2	3-4後				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
共通教育科目／ 教養教育科目	初級韓国語1-1	1前		1							兼1
	初級韓国語1-2	1後		1							兼1
	初級韓国語2-1	2前		1							兼1
	初級韓国語2-2	2後		1							兼1
	中級韓国語1	3・4前		1							兼1
	中級韓国語2	3・4後		1							兼1
	英語C1	2・3・4前		1							兼1
	英語C2	2・3・4後		1							兼1
	英語D1	2・3・4前		1							兼1
	英語D2	2・3・4後		1							兼1
	英語E1	2・3・4前		1							兼1
	英語E2	2・3・4後		1							兼1
	自主科目A	1-2-3-4		2		1					
	自主科目B	1-2-3-4		2		1					
	自主科目C	1-2-3-4		2		1					
	海外研修A	1-2-3-4後		2		1					
海外研修B	1-2-3-4後		2		1						
海外研修C	1-2-3-4後		2		1						
海外研修D	1-2-3-4後		2		1						
小計(86科目)	-										
専門教育科目／ 発達教育系科目／ 初等教育専門科目	教職論(小・中・高)	1-2前	2			1	1				
	教育原理(小・中・高)	1-2後	2			1					兼1
	教育の制度と社会(小・中・高)	2-3前	2			1					兼1
	教育心理学(小・中・高)	1-2前	2			1					兼1
	教職実践演習(小・中・高)	4後	2			3					兼1
	教育課程論(小・中・高)	2後	2			1					兼1
	道徳指導法(小・中・高)	2-3前	2			1					兼1
	特別活動指導法(小・中・高)	2-3前	2			1					兼1
	教育方法論(小・中・高)	2-3前	2			1					兼1
	生徒指導と進路指導(小・中・高)	2-3前	2			1					兼1
	教育相談(小・中・高)	2後	2			2					兼1
	総合的な学習の時間に関する指導法(小・中・高)	2-3・4後	2			1					兼1
	小学校国語(書写を含む)	1-2-3-4後	2			1					兼1
	小学校社会	1-2-3-4後	2			1					兼1
	小学校算数	1-2-3-4前	2			1					兼1
	小学校理科	1-2-3-4前	2			1					兼1
	小学校生活	1-2-3-4後	2	2		1					兼1
	小学校音楽	1-2-3-4後	2	2							兼1
	小学校図画工作	1-2-3-4後	2	2		1					兼1
	小学校家庭	1-2-3-4前	2	2							兼1
	小学校体育	1-2-3-4前	2	2							兼1
	生涯学習概論	1-2-3-4後	2	2							兼1
	外国語活動に関する指導法(初等)	3-4前	2								兼1
	発達心理学	2-3前	2								兼1
	特別支援教育総論	1後	2			3	1				兼1
	知的障害児教育総論	2-3後	2								兼1
	知的障害の発達心理学	2-3前	2			1					兼1
	国語科教育法(初等)	2-3前	2			1					兼1
	社会科教育法(初等)	2-3前	2			1					兼1
	算数科教育法(初等)	1-2-3後	2								兼1
	理科教育法(初等)	1-2-3後	2			1					兼1
	生活科教育法(初等)	2-3前	2	2							兼1
	音楽科教育法(初等)	2-3前	2	2							兼1
図画工作科教育法(初等)	1-2-3後	2	2		1					兼1	
家庭科教育法(初等)	1-2-3後	2	2							兼1	
体育科教育法(初等)	1-2-3後	2	2							兼1	
教職初期指導	1後	2	2		2					兼1	
教職総合指導	2-3前	2	2		2					兼1	
教職実践研究(小・中・高)	3後	2	2		3					兼1	
教育実習事前事後指導(初等)	3後	1	1		2					兼1	
小学校教育実習	3後	4	4		1					兼1	
専門教育科目／ 発達教育系科目／ 特別支援教育専門科目	知的障害児・者心理学	2-3前	2								兼1
	知的障害児・者生理心理学	2-3後	2								兼1
	知的障害の認知心理学	2-3前	2								兼1
	視覚障害教育	2-3後	2								兼1
	聴覚障害者教育総論	2-3前	1								兼1
	肢体不自由者教育総論	2-3後	2								兼1
	病弱教育	2-3前	2								兼1
	重複障害教育	2-3前	2								兼1
	言語障害教育	2-3前	1			1	1				兼1
	発達障害児の心理と教育	2-3後	2			1	1				兼1
	知的障害児教育法1	3前	2			1					兼1
知的障害児教育法2	3後	2			1					兼1	
知的障害児教育課程論	2-3後	2								兼1	
特別支援学校教育実習事前事後指導	4前	1			2	1				兼1	
特別支援学校教育実習	4前	2			2	1				兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目／ 発達教育系科目／ 中等教育専門科目	日本語学概論A	1-2前	2			1						兼1 兼1
	日本語学概論B	1-2後	2			1						
	日本語文法A	1-2前		2		1						
	日本語文法B	1-2後		2		1						
	文章表現法	2-3後	2			1						
	日本人の言語史A	2-3前		2								
	日本人の言語史B	2-3後		2								
	日本文学史A	1-2前	2									
	日本文学史B	1-2後	2			1						
	日本文学史C	2-3前		2								
	日本文学史D	2-3後		2								
	日本古典文学研究A	2-3前		2								
	日本古典文学研究B	2-3後		2								
	日本近代文学研究A	2-3前		2								
	日本近代文学研究B	2-3後		2								
	日本近代文学研究C	2-3前		2								
	日本近代文学研究D	2-3後		2								
	漢文学概論A	1-2前	2			1						
	漢文学概論B	1-2後	2			1						
	書道A	1-2-3前	1									
	書道B	1-2-3後		1								
	国語科教育法1	2前		2		1						
	国語科教育法2	2後		2								
	国語科教育法3	3前		2		1						
	国語科教育法4	3後		2								
	教育実習事前事後指導(中・高)	4前		1		1						
	高等学校教育実習	4前		2		1						
	中学校教育実習	4前		4		2						
専門教育科目	専門演習A	2前	2			2	1				兼4	
	専門演習B	2後	2			3					兼5	
	専門演習C	3前	2			2	1				兼4	
	専門演習D	3後	2			3					兼5	
専門教育科目	卒論指導演習1	4前	2			7					兼7	
	卒論指導演習2	4後	2			7					兼7	
	卒業論文	4後	8			7					兼7	
	小計(91科目)	-										
	合計(177科目)	-										
卒業要件及び履修方法												
卒業要件 学生は、当該学部のでめる次の区分により授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。 ア. 共通教育科目は、必修科目を含め40単位以上 イ. 専門教育科目は、必修科目を含め97単位以上 履修方法 履修科目の登録の上限：年間44単位(半期22単位)まで												

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

特になし。

【令和元年度】

- ・職位変更により「基礎ゼミナール1」教授2→教授3、准教授1→0へ変更
- ・担当者変更により「英語A3」「英語A4」兼4→兼3へ変更
- ・担当者変更により「英語B1」「英語B2」兼3→兼2へ変更
- ・担当者変更により「英語B3」「英語B4」兼3→兼1へ変更
- ・担当者変更により「日本語A1a」「日本語A2a」「日本語B3」「日本語B4」教授1→兼1へ変更
- ・担当者増員により「コンピュータリテラシー」兼2→兼4へ変更
- ・担当者増員により「スポーツ科学実技A1」「スポーツ科学実技A2」兼3→兼4へ変更
- ・職位変更及び担当者増員により「プレインターンシップ」教授2→教授3、准教授1→0、兼15→兼17へ変更
- ・担当者増員により「インターンシップ」兼4→兼5へ変更
- ・未開講のため「哲学」「文学」「ジェンダー論」「英語D1」「英語D2」「日本人の言語史A」「日本人の言語史B」兼1削除
- ・担当者変更のため「デザイン論」兼1→教授1へ変更
- ・担当者変更のため「現代社会の諸問題B」兼1→教授へ変更
- ・担当者増員により「文章表現法」教授0→教授1へ変更
- ・職位変更により「言語障害教育」「発達障害児の心理と教育」教授0→教授1、准教授1→0へ変更
- ・職位変更により「特別支援学校教育事前事後指導」「特別支援学校教育実習」教授1→教授2、准教授1→0へ変更
- ・職位変更及び担当者変更により「専門演習A」「専門演習C」教授2→教授3、准教授1→0、兼4→兼3へ変更
- ・担当者変更により「専門演習B」「専門演習D」教授3→教授2、兼5→兼6へ変更
- ・職位変更及び担当者変更により「卒論指導演習1」「卒論指導演習2」「卒業論文」准教授1→0、兼8→9へ変更

【令和2年度】

- ・担当者変更により「基礎ゼミナール2」准教授1→0、兼3→兼2へ変更
- ・担当者変更により「英語B3」「英語B4」兼3→兼1へ変更
- ・担当者増員により「とちぎ学」兼1→兼2へ変更
- ・担当者変更及び増員により「プレインターンシップ」教授5→7、准教授1→0、兼15→兼20へ変更
- ・未開講のため「科学・技術論」「英語C1」「英語C2」「英語E1」「英語E2」兼1削除
- ・担当者変更のため「教職論(小・中・高)」教授1→准教授1へ変更
- ・職位変更のため「教育の制度と社会(小・中・高)」「教育課程論(小・中・高)」教授1→兼1へ変更
- ・職位変更のため「特別活動指導法(小・中・高)」教授2→教授1、兼1へ変更
- ・担当者変更により「国語科教育法1」「国語科教育法3」兼1→教授1へ変更
- ・職位変更及び担当者変更により「卒論指導演習1」「卒論指導演習2」「卒業論文」教授5→7、准教授1→0、兼8→7へ変更

下記科目については令和元年度に変更があったが、担当者変更、担当者増員等により認可時または届出時の教員配置に戻る。
・「英語A3(英文講読)」「英語A4(英文講読)」「英語B1(コミュニケーション)」「英語B2(コミュニケーション)」「文学」「専門演習A」「専門演習B」「専門演習C」「専門演習D」

【令和3年度】

- ・担当者変更により「基礎ゼミナール1」教授2→3、准教授1→削除
- ・担当者変更により「基礎ゼミナール2」教授2→1、准教授0→1、兼3→兼2へ変更
- ・担当者変更により「英語B3」「英語B4」兼3→兼1へ変更
- ・担当者変更により「日本語A1a」「日本語A2a」教授1→削除、兼任1を追加
- ・担当者変更により「日本語A3b」「日本語A4b」兼担0→1を追加
- ・担当者増員により「とちぎ学」兼1→兼2へ変更
- ・担当者変更により「キャリアデザイン1」教授0→1を追加
- ・担当者変更及び増員により「プレインターンシップ」教授5→7、准教授1→削除
- ・担当者変更により「デザイン論」教授0→1を追加
- ・担当者変更により「現代社会の諸問題B」教授0→1を追加
- ・未開講のため「科学・技術論」「環境論」「ジェンダー論」「英語C1」「英語C2」「英語E1」「英語E2」兼1削除
- ・担当者変更のため「教職論(小・中・高)」教授1→削除、准教授0→1を追加
- ・職位変更のため「教育の制度と社会(小・中・高)」「教育課程論(小・中・高)」教授1→兼1へ変更
- ・担当者変更のため「特別活動指導法(小・中・高)」「教育相談(小中高)」教授2→削除、准教授0→1を追加
- ・担当者変更により「特別支援教育総論」教授2→1に変更、准教授1→削除
- ・担当者変更により「教職初期指導」教授2→1に変更
- ・担当者変更により「教職実践研究(小中高)」教授3→2へ変更
- ・担当者変更により「小学校教育実習」教授1→2へ変更
- ・担当者変更により「言語障害教育」准教授1を削除、教授0→1へ変更
- ・担当者変更により「発達障害児の心理と教育」准教授1を削除、教授1を追加
- ・担当者変更により「文章表現法」教授1を追加
- ・後任担当者がいないため非開講とし、「日本人の言語史A」「日本人の言語史B」兼任1→削除
- ・担当者変更により「国語科教育法1」「国語科教育法3」兼1を削除、教授1を追加
- ・担当者変更により「専門演習A」「専門演習C」教授2→3に変更、准教授1を削除
- ・担当者変更により「卒業指導演習1」教授5→3へ変更、兼任8→4へ変更

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
60 科目	117 科目	科目	177 科目	60 科目 []	117 科目 []	科目 []	177 科目 []	

(注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	哲学	2	1・2	一般	選択	担当者退職、後任未定
2	環境論	2	1・2	一般	選択	担当者退職、後任未定
3	科学・技術論	2	1・2	一般	選択	担当者退職、後任未定
4	ジェンダー論	2	1・2	一般	選択	担当者退職、後任未定
5	英語C1	1	1・2	一般	選択	担当者体調不良、後任未定
6	英語C2	1	1・2	一般	選択	担当者体調不良、後任未定
7	英語D1	1	2・3・4	一般	選択	英語B1、B2クラス増設の都合により、非開講
8	英語D2	1	2・3・4	一般	選択	英語B1、B2クラス増設の都合により、非開講
9	英語E1	1	2・3・4	一般	選択	英語A1、A2クラス増設の都合により、非開講
10	英語E2	1	2・3・4	一般	選択	英語A1、A2クラス増設の都合により、非開講
11	日本人の言語史A	2	2・3	専門	選択	担当者退職（本人死亡）、後任未定
12	日本人の言語史B	2	2・3	専門	選択	担当者退職（本人死亡）、後任未定
13	日本近代文学研究C	2	2・3	専門	選択	担当者退職、後任未定
14	日本近代文学研究D	2	2・3	専門	選択	担当者退職、後任未定

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「大学の所見」 教員の担当科目数や実施準備等の都合から、非開講となった科目がある。また、後任未定の科目については今後専任教員の採用または非常勤講師で対応する計画である。</p> <p>「学生への周知方法」 新入生オリエンテーション時の履修指導の時間に教務課職員及び教務委員の教員により開講できない理由や次年度の処置を説明し、次年度の履修に支障が生じないように配慮した。</p>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{14}{177} = \boxed{7.9}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考			
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	作新学院大学女子短期大学部（必要面積2,600㎡）と共用（収容定員：270人） 宇都宮市LRT整備事業に伴い、その事業用地として校地等に分類される校地を処分するもの。作学法発第30号令和元年11月15日「校地変更届」提出済、作学法発第48号令和2年4月6日差替（2）			
	校舎敷地	3,622㎡	54,795㎡	1,634㎡	60,051㎡				
	運動場用地	11,629㎡	16,362㎡	3,953㎡	31,944㎡				
	小計	15,251㎡	71,157㎡	5,587㎡	91,995㎡				
	その他	0㎡	10,136㎡ 12,020㎡	0㎡	10,136㎡ 12,020㎡				
合計	15,251㎡	81,293㎡ 83,185㎡	5,587㎡	102,131㎡ 104,023㎡					
(2) 校舎	専用	7,083㎡	5,435㎡	4,241㎡	16,759㎡	作新学院大学女子短期大学部（必要面積2,850㎡）と共用（収容定員：270人）			
	(7,083 ㎡)	(5,435 ㎡)	(4,241 ㎡)	(16,759 ㎡)					
(3) 教室等	講義室	20室	演習室	26室	実験実習室	6室	大学全体（語学学習施設は、作新学院大学女子短期大学部と共有）		
	情報処理学習施設	1室	語学学習施設	1室	(補助職員 人)	(補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室数		令和2年4月専任教員1名を新規採用のため（2）			
	人間文化学部 発達教育学科			16 +5 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書館は作新学院大学女子短期大学部と共有 電子ジャーナルは、作新学院大学女子短期大学部と共有 図書冊数の変更は、蔵書要望による（30） 図書冊数の変更は、蔵書要望による（元） 図書冊数の変更は、蔵書要望による（2） 図書冊数の変更は、蔵書要望による（3）	
	〇〇学部	1800〔100〕 (384〔26〕) (508〔39〕) (593〔57〕) (526〔22〕)	120〔3〕 (126〔8〕) (127〔9〕) (144〔10〕) (143〔8〕)	5070〔5000〕 (5172〔5104〕) (5508〔5441〕) (5417〔5322〕) (5099〔5032〕)	40 (4) (24) (30) (8)				
	計	1800〔100〕 (384〔26〕) (508〔39〕) (593〔57〕) (526〔22〕)	120〔3〕 (126〔8〕) (127〔9〕) (144〔10〕) (143〔8〕)	5070〔5000〕 (5172〔5104〕) (5508〔5441〕) (5417〔5322〕) (5099〔5032〕)	40 (4) (24) (30) (8)				
(6) 図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		女子短期大学部共有			
	4,064㎡	321席		32万冊					
(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	1,777㎡	-							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費を含む	
	教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	7,000千円	7,000千円	7,000千円		
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	9,826千円	18,941千円	15,250千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1,320千円	第2年次 1,000千円	第3年次 1,000千円	第4年次 1,000千円	第5年次 —千円	第6年次 —千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経費常費補助金、資金運用収入、雑収入							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(3)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	作新学院大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
大学院経営学研究科 博士前期課程	2	20	—	40	修士(経営学)	0.35	0.3		平成5年度	栃木県宇都宮市 竹下町字東原 908番地の4	
博士後期課程	3	3	—	9	博士(経営学)	0.22	0.66		平成7年度		同上
大学院心理学研究科 臨床心理学専攻 (修士課程)	2	15	—	30	修士(臨床心理学)	0.87	0.8		平成18年度	同上	
経営学部											
経営学科	4	105	—	420	学士(経営学)	1.13	1.21		平成26年度	同上	平成26年度設置の経営学部経営学科(入学定員120名)、スポーツマネジメント学科(入学定員60名)で設置平成28年度に経営学部経営学科(入学定員105名)、スポーツマネジメント学科(入学定員95名)に変更
スポーツマネジメント学科	4	95	—	380	学士(経営学)	0.91	0.92		平成26年度	同上	
人間文化学部											
人間文化学科	4	—	—	—	学士(人間文化学)	—	—		平成14年度	同上	平成30年度より学生募集停止
発達教育学科	4	50	—	200	学士(人間文化学)	0.77	0.62		平成30年度	同上	
心理コミュニケーション学科	4	50	—	200	学士(人間文化学)	1.15	1		平成30年度	同上	
大学全体	4	338	—	1279	—	0.97	0.96		平成元年度	同上	備考
大学の名称	作新学院大学女子短期大学部						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍				
幼児教育科	2	135	—	280	短期大学士(幼児教育)	0.90	0.90		昭和42年度	栃木県宇都宮市 竹下町字東原 908番地の4	令和2年度より入学定員135名に変更

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) 年 月 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) 年 月 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) 年 月 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) 年 月 保有学位等	担当授業科目名
専任	高 高 浩 二 (40) <平成30年4月> 心身障害者学士	基礎ゼミナール1 特別支援教育総論 発達障害児の心理と教育 言語障害教育 専門演習A・C 特別支援学校教育実習事前事後指導 特別支援学校教育実習 卒業指導演習1 卒業指導演習2 フラインク・セッション	専任	高 高 浩 二 (41) <平成30年4月> 心身障害者学士	基礎ゼミナール1 特別支援教育総論 発達障害児の心理と教育 言語障害教育 専門演習A・C 特別支援学校教育実習事前事後指導 特別支援学校教育実習 卒業指導演習1 卒業指導演習2 フラインク・セッション	専任	高 高 浩 二 (42) <平成30年4月> 修士(心理学)(心身障害学)	基礎ゼミナール1 特別支援教育総論 発達障害児の心理と教育 言語障害教育 専門演習A・C 専門演習B・D 特別演習A・C 特別支援学校教育実習事前事後指導 特別支援学校教育実習 卒業指導演習1 卒業指導演習2 フラインク・セッション 知的障害児教育法1	専任	高 高 浩 二 (43) <平成30年4月> 修士(心理学)(心身障害学)	基礎ゼミナール1 特別支援教育総論 発達障害児の心理と教育 言語障害教育 専門演習A・C 専門演習B・D 特別演習A・C 特別支援学校教育実習事前事後指導 特別支援学校教育実習 卒業指導演習1 卒業指導演習2 フラインク・セッション 知的障害児教育法1
専任	大 橋 幸 雄 (63) <平成30年4月> 学士	国語科教育法(初等) 日本文学史B 中学校教育実習 高等学校教育実習	専任	大 橋 幸 雄 (64) <平成30年4月> 学士	国語科教育法(初等) 日本文学史B 中学校教育実習 高等学校教育実習 フラインク・セッション	専任	大 橋 幸 雄 (65) <平成30年4月> 学士	国語科教育法(初等) 日本文学史B 中学校教育実習 高等学校教育実習 フラインク・セッション 国語科教育法3	専任	大 橋 幸 雄 (66) <平成30年4月> 学士	国語科教育法(初等) 日本文学史B 中学校教育実習 高等学校教育実習 フラインク・セッション 国語科教育法3 国語科教育法3 国語科教育法3
専任	木 村 直 人 (63) <平成30年4月> 法学士	社会科教育法(初等) 生徒指導と進路指導(小・中・高) 教育実習事前事後指導(中・高) 教職実践演習(小・中・高)	専任	木 村 直 人 (63) <平成30年4月> 法学士	社会科教育法(初等) 生徒指導と進路指導(小・中・高) 教育実習事前事後指導(中・高) 教職実践演習(小・中・高)	専任	木 村 直 人 (65) <平成30年4月> 法学士	社会科教育法(初等) 生徒指導と進路指導(小・中・高) 教育実習事前事後指導(中・高) 教職実践演習(小・中・高) フラインク・セッション 現代社会の諸問題C	専任	木 村 直 人 (66) <平成30年4月> 法学士	社会科教育法(初等) 生徒指導と進路指導(小・中・高) 教育実習事前事後指導(中・高) 教職実践演習(小・中・高) フラインク・セッション 現代社会の諸問題C
専任	九 津 夏 幸 男 (67) <平成30年4月> 修士	小学校理科 理科教育法(初等) 教職初級指導 教職総合指導 総合的な学習に関する指導法(小・中・高) 教育実習事前事後指導(初等) 教職実践演習(小・中・高) 小学校教育実習 教職実践演習(小・中・高) フラインク・セッション	専任	九 津 夏 幸 男 (67) <平成30年4月> 修士	小学校理科 理科教育法(初等) 教職初級指導 教職総合指導 総合的な学習に関する指導法(小・中・高) 教育実習事前事後指導(初等) 教職実践演習(小・中・高) 小学校教育実習 教職実践演習(小・中・高) フラインク・セッション	専任	九 津 夏 幸 男 (70) <平成30年4月> 修士(農学)	小学校理科 理科教育法(初等) 教職初級指導 教職総合指導 総合的な学習に関する指導法(小・中・高) 教育実習事前事後指導(初等) 教職実践演習(小・中・高) 小学校教育実習 教職実践演習(小・中・高) フラインク・セッション	専任	九 津 夏 幸 男 (70) <平成30年4月> 修士(農学)	小学校理科 理科教育法(初等) 教職初級指導 教職総合指導 総合的な学習に関する指導法(小・中・高) 教育実習事前事後指導(初等) 教職実践演習(小・中・高) 小学校教育実習 教職実践演習(小・中・高) フラインク・セッション
専任	佐 久 間 憲 (70) <平成30年4月> 教育学修士	知的障害の発達心理学	専任	佐 久 間 憲 (70) <平成30年4月> 教育学修士	知的障害の発達心理学	専任	佐 久 間 憲 (72) <平成30年4月> 教育学修士	知的障害の発達心理学	専任	佐 久 間 憲 (73) <平成30年4月> 教育学修士	知的障害の発達心理学
専任	中 山 隆 勝 (70) <平成30年4月> 博士(文学)	小学校国語(書きを含む) 日本語表現法1 日本語表現法2 日本語A1 a 日本語A2 a 日本語B1 a 日本語B2 a 日本語B4	専任	中 山 隆 勝 (70) <平成30年4月> 博士(文学)	小学校国語(書きを含む) 日本語表現法1 日本語表現法2 日本語A1 a 日本語A2 a 日本語B1 a 日本語B2 a 日本語B4	専任	中 山 隆 勝 (71) <平成30年4月> 博士(文学)	小学校国語(書きを含む) 日本語表現法1 日本語表現法2 日本語A1 a 日本語A2 a 日本語B1 a 日本語B2 a 日本語B4	専任	中 山 隆 勝 (72) <平成30年4月> 博士(文学)	小学校国語(書きを含む) 日本語表現法1 日本語表現法2 日本語A1 a 日本語A2 a 日本語B1 a 日本語B2 a 日本語B4
専任	野 村 謙 彦 (65) <平成30年4月> 教育学修士	特別支援教育総論 知的障害児教育法1 知的障害児教育法2 特別支援学校教育実習事前事後指導 特別支援学校教育実習 特別支援教育実習(小・中・高)	専任	野 村 謙 彦 (65) <平成30年4月> 教育学修士	特別支援教育総論 知的障害児教育法1 知的障害児教育法2 特別支援学校教育実習事前事後指導 特別支援学校教育実習 特別支援教育実習(小・中・高)	専任	野 村 謙 彦 (66) <平成30年4月> 教育学修士	特別支援教育総論 知的障害児教育法1 知的障害児教育法2 特別支援学校教育実習事前事後指導 特別支援学校教育実習 特別支援教育実習(小・中・高)	専任	野 村 謙 彦 (67) <平成30年4月> 教育学修士	特別支援教育総論 知的障害児教育法1 知的障害児教育法2 特別支援学校教育実習事前事後指導 特別支援学校教育実習 特別支援教育実習(小・中・高)
専任	村 松 和 彦 (59) <平成30年4月> 教育学修士	小学校図画工作 図画工作科教育法(初等)	専任	村 松 和 彦 (60) <平成30年4月> 教育学修士	小学校図画工作 図画工作科教育法(初等)	専任	村 松 和 彦 (62) <平成30年4月> 教育学修士	小学校図画工作 図画工作科教育法(初等) c デザイン 卒業指導演習1 卒業指導演習2	専任	村 松 和 彦 (63) <平成30年4月> 教育学修士	小学校図画工作 図画工作科教育法(初等) c デザイン 卒業指導演習1 卒業指導演習2
兼任	小 黒 浩 司 (60) <平成30年4月> 修士(文学)	図書館総論 図書館情報資源総論 図書館サービス総論 情報資源組織論 情報資源組織演習1 情報資源組織演習2 図書館基礎特論 図書館経営・経営論 図書館情報資源特論 図書・図書館史 学習指導と学校図書館 情報メディアの活用 フラインク・セッション	兼任	小 黒 浩 司 (60) <平成30年4月> 修士(文学)	図書館総論 図書館情報資源総論 図書館サービス総論 情報資源組織論 情報資源組織演習1 情報資源組織演習2 図書館基礎特論 図書館経営・経営論 図書館情報資源特論 図書・図書館史 学習指導と学校図書館 情報メディアの活用 フラインク・セッション	兼任	小 黒 浩 司 (61) <平成30年4月> 修士(文学)	図書館総論 図書館情報資源総論 図書館サービス総論 情報資源組織論 情報資源組織演習1 情報資源組織演習2 図書館基礎特論 図書館経営・経営論 図書館情報資源特論 図書・図書館史 学習指導と学校図書館 情報メディアの活用 フラインク・セッション	兼任	小 黒 浩 司 (62) <平成30年4月> 修士(文学)	図書館総論 図書館情報資源総論 図書館サービス総論 情報資源組織論 情報資源組織演習1 情報資源組織演習2 図書館基礎特論 図書館経営・経営論 図書館情報資源特論 図書・図書館史 学習指導と学校図書館 情報メディアの活用 フラインク・セッション

専任・兼任の別	氏名 (年齢) 年月 保有学位等	氏名 (年齢) 年月 保有学位等	専任・兼任の別	氏名 (年齢) 年月 保有学位等	氏名 (年齢) 年月 保有学位等	専任・兼任の別	氏名 (年齢) 年月 保有学位等	氏名 (年齢) 年月 保有学位等
職名	担当授業科目名	職名	職名	担当授業科目名	職名	職名	担当授業科目名	職名
兼任	クイン マシュー (37) <平成30年4月> BSc (Geography 2.1)	クイン マシュー (37) <平成30年4月> BSc (Geography 2.1)	兼任	クイン マシュー (38) <平成30年4月> BSc (Geography 2.1)	クイン マシュー (34) <平成30年4月> BSc (Geography 2.1)	兼任	クイン マシュー (35) <平成30年4月> BSc (Geography 2.1)	クイン マシュー (35) <平成30年4月> BSc (Geography 2.1)
兼任	英語B1 英語B2 英語B3 英語B4 英語D1	英語B1 英語B2 英語B3 英語B4 英語D1	兼任	英語B1 英語B2 英語B3 英語B4 英語D1	英語B1 英語B2 英語B3 英語B4 英語D+	兼任	英語B1 英語B2 英語B3 英語B4 英語D+	英語B1 英語B2 英語B3 英語B4 英語D+
兼任	天 尾 久 夫 (52) <平成30年4月> 修士 (経済学)	天 尾 久 夫 (52) <平成30年4月> 修士 (経済学)	兼任	天 尾 久 夫 (40) <平成30年4月> 修士 (経済学)	天 尾 久 夫 (41) <平成30年4月> 修士 (経済学)	兼任	天 尾 久 夫 (50) <平成30年4月> 修士 (経済学)	天 尾 久 夫 (50) <平成30年4月> 修士 (経済学)
	ブレインターンシップ	ブレインターンシップ		ブレインターンシップ	ブレインターンシップ		ブレインターンシップ	ブレインターンシップ
兼任	笠 原 彰 (46) <平成30年4月> 修士 (体育学)	笠 原 彰 (46) <平成30年4月> 修士 (体育学)	兼任	笠 原 彰 (50) <平成30年4月> 修士 (体育学)	笠 原 彰 (51) <平成30年4月> 修士 (体育学)	兼任	笠 原 彰 (50) <平成30年4月> 修士 (体育学)	笠 原 彰 (50) <平成30年4月> 修士 (体育学)
兼任	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 ブレインターンシップ インターンシップ	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 ブレインターンシップ インターンシップ	兼任	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 ブレインターンシップ インターンシップ	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 ブレインターンシップ インターンシップ	兼任	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 ブレインターンシップ インターンシップ	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 ブレインターンシップ インターンシップ
兼任	小 山 きなえ (49) <平成30年4月> 修士 (スポーツ科学)							
兼任	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 スポーツ科学実技C インターンシップ							
兼任	菅 谷 美沙都 (34) <平成30年4月> 修士 (体育学)							
	ブレインターンシップ							
兼任	関 根 正 敏 (34) <平成30年4月> 修士 (体育学)	関 根 正 敏 (34) <平成30年4月> 修士 (体育学)	兼任					
	ブレインターンシップ	ブレインターンシップ						
兼任	相 馬 聡 (39) <平成30年4月> 学士 (体育学)	相 馬 聡 (39) <平成30年4月> 学士 (体育学)	兼任	相 馬 聡 (40) <平成30年4月> 学士 (体育学)	相 馬 聡 (41) <平成30年4月> 学士 (体育学)	兼任	相 馬 聡 (42) <平成30年4月> 学士 (体育学)	相 馬 聡 (42) <平成30年4月> 学士 (体育学)
兼任	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	兼任	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	兼任	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ
兼任	高 橋 秀 行 (59) <平成30年4月> 修士 (農学)	高 橋 秀 行 (59) <平成30年4月> 修士 (農学)	兼任	高 橋 秀 行 (60) <平成30年4月> 修士 (農学)	高 橋 秀 行 (61) <平成30年4月> 修士 (農学)	兼任	高 橋 秀 行 (62) <平成30年4月> 修士 (農学)	高 橋 秀 行 (62) <平成30年4月> 修士 (農学)
兼任	ブレインターンシップ コンピュータリテラシー2	ブレインターンシップ コンピュータリテラシー2	兼任	ブレインターンシップ コンピュータリテラシー2	ブレインターンシップ コンピュータリテラシー2	兼任	ブレインターンシップ コンピュータリテラシー2	ブレインターンシップ コンピュータリテラシー2
兼任	萩 原 明 徳 (53) <平成30年4月> 修士 (工学)	萩 原 明 徳 (54) <平成30年4月> 修士 (工学)	兼任	萩 原 明 徳 (55) <平成30年4月> 修士 (工学)	萩 原 明 徳 (56) <平成30年4月> 修士 (工学)	兼任	萩 原 明 徳 (57) <平成30年4月> 修士 (工学)	萩 原 明 徳 (57) <平成30年4月> 修士 (工学)
	コンピュータリテラシー2	コンピュータリテラシー2		コンピュータリテラシー2	コンピュータリテラシー2		コンピュータリテラシー2	コンピュータリテラシー2
兼任	越 藤 吉 (58) <平成30年4月> 博士 (工学)	越 藤 吉 (58) <平成30年4月> 博士 (工学)	兼任	越 藤 吉 (59) <平成30年4月> 博士 (工学)	越 藤 吉 (60) <平成30年4月> 博士 (工学)	兼任	越 藤 吉 (61) <平成30年4月> 博士 (工学)	越 藤 吉 (61) <平成30年4月> 博士 (工学)
	情報と社会	情報と社会		情報と社会	情報と社会		情報と社会	情報と社会
兼任	那 須 野 公 人 (64) <平成30年4月> 修士 (経済学)	那 須 野 公 人 (64) <平成30年4月> 修士 (経済学)	兼任					
	ブレインターンシップ	ブレインターンシップ						
兼任	樋 口 徹 (48) <平成30年4月> 修士 (経営学)	樋 口 徹 (48) <平成30年4月> 修士 (経営学)	兼任	樋 口 徹 (49) <平成30年4月> 修士 (経営学)	樋 口 徹 (50) <平成30年4月> 修士 (経営学)	兼任	樋 口 徹 (51) <平成30年4月> 修士 (経営学)	樋 口 徹 (51) <平成30年4月> 修士 (経営学)
	ブレインターンシップ	ブレインターンシップ		ブレインターンシップ	ブレインターンシップ		ブレインターンシップ	ブレインターンシップ
兼任	福 田 将 史 (59) <平成30年4月> 修士 (体育学)	福 田 将 史 (59) <平成30年4月> 修士 (体育学)	兼任	福 田 将 史 (60) <平成30年4月> 修士 (体育学)	福 田 将 史 (61) <平成30年4月> 修士 (体育学)	兼任	福 田 将 史 (62) <平成30年4月> 修士 (体育学)	福 田 将 史 (62) <平成30年4月> 修士 (体育学)
兼任	健康・スポーツ概論 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	健康・スポーツ概論 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	兼任	スポーツ科学実技A1 健康・スポーツ概論 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	スポーツ科学実技A1 健康・スポーツ概論 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	兼任	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 健康・スポーツ概論 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ	スポーツ科学実技A1 スポーツ科学実技A2 健康・スポーツ概論 スポーツ科学実技C ブレインターンシップ
兼任	前 橋 明 庸 (56) <平成30年4月> 修士 (経営学) (専攻士)	前 橋 明 庸 (57) <平成30年4月> 修士 (経営学) (専攻士)	兼任	前 橋 明 庸 (58) <平成30年4月> 修士 (経営学) (専攻士)	前 橋 明 庸 (59) <平成30年4月> 修士 (経営学) (専攻士)	兼任	前 橋 明 庸 (60) <平成30年4月> 修士 (経営学) (専攻士)	前 橋 明 庸 (60) <平成30年4月> 修士 (経営学) (専攻士)
	キャリアデザイン2	キャリアデザイン2		キャリアデザイン2	キャリアデザイン2 インターンシップ		キャリアデザイン2 インターンシップ	キャリアデザイン2 インターンシップ
兼任	山 下 裕 介 (37) <平成30年4月> 博士 (工学)	山 下 裕 介 (37) <平成30年4月> 博士 (工学)	兼任	山 下 裕 介 (38) <平成30年4月> 博士 (工学)	山 下 裕 介 (39) <平成30年4月> 博士 (工学)	兼任	山 下 裕 介 (40) <平成30年4月> 博士 (工学)	山 下 裕 介 (40) <平成30年4月> 博士 (工学)
	コンピュータリテラシー2	コンピュータリテラシー2		コンピュータリテラシー2 現代社会の発展と ブレインターンシップ	コンピュータリテラシー2 現代社会の発展と ブレインターンシップ		コンピュータリテラシー2 現代社会の発展と ブレインターンシップ	コンピュータリテラシー2 現代社会の発展と ブレインターンシップ

専任・兼任の別	職名	氏名 <(年齢)年(月)> <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 <(年齢)年(月)> <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 <(年齢)年(月)> <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 <(年齢)年(月)> <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 <(年齢)年(月)> <就任(予定)年月> 保有学位等
兼任	講師	長 澤 順 (46) <平成30年4月> 修士	兼任	講師	長 澤 順 (46) <平成30年4月> 修士	兼任	講師	長 澤 順 (47) <平成30年4月> 修士	兼任	講師	長 澤 順 (48) <平成30年4月> 修士	兼任	講師	長 澤 順 (49) <平成30年4月> 修士
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
	小学校音楽			小学校音楽			小学校音楽			小学校音楽			小学校音楽	
兼任	講師	増 茂 智子 (58) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	増 茂 智子 (58) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	増 茂 智子 (59) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	増 茂 智子 (61) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	増 茂 智子 (61) <平成30年4月> 教育学修士
	小学校家庭			小学校家庭			小学校家庭			小学校家庭			小学校家庭	
兼任	講師	半 塚 剛 仁 (51) <平成30年4月> 学士	兼任	講師	半 塚 剛 仁 (51) <平成30年4月> 学士	兼任	講師	半 塚 剛 仁 (52) <平成30年4月> 学士	兼任	講師	半 塚 剛 仁 (53) <平成30年4月> 学士	兼任	講師	半 塚 剛 仁 (54) <平成30年4月> 学士
	小学校体育			小学校体育			小学校体育			小学校体育			小学校体育	
兼任	講師	池 本 善代正 (63) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	池 本 善代正 (63) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	池 本 善代正 (64) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	池 本 善代正 (65) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	池 本 善代正 (66) <平成30年4月> 教育学修士
	知的障害児教育総論 知的障害児教育課程論			知的障害児教育総論 知的障害児教育課程論			知的障害児教育総論 知的障害児教育課程論			知的障害児教育総論 知的障害児教育課程論			知的障害児教育総論 知的障害児教育課程論	
兼任	講師	澤 田 美 (64) <平成30年4月>	兼任	講師	澤 田 美 (64) <平成30年4月>	兼任	講師	澤 田 美 (65) <平成30年4月>	兼任	講師	澤 田 美 (66) <平成30年4月>	兼任	講師	澤 田 美 (67) <平成30年4月>
	生涯学習概論			生涯学習概論			生涯学習概論			生涯学習概論			生涯学習概論	
兼任	講師	司 城 紀代美 (44) <平成30年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	司 城 紀代美 (44) <平成30年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	司 城 紀代美 (45) <平成30年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	司 城 紀代美 (46) <平成30年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	司 城 紀代美 (47) <平成30年4月> 修士(教育学)
	知的障害児・者心理学			知的障害児・者心理学			知的障害児・者心理学			知的障害児・者心理学			知的障害児・者心理学	
兼任	講師	鈴木 麻央 (29) <平成30年4月> 修士	兼任	講師	鈴木 麻央 (29) <平成30年4月> 修士	兼任	講師	鈴木 麻央 (30) <平成30年4月> 修士	兼任	講師	鈴木 麻央 (31) <平成30年4月> 修士	兼任	講師	鈴木 麻央 (32) <平成30年4月> 修士
	視覚障害教育			視覚障害教育			視覚障害教育			視覚障害教育			視覚障害教育	
兼任	講師	藤 丸 新一 (39) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	藤 丸 新一 (39) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	藤 丸 新一 (40) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	藤 丸 新一 (41) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	藤 丸 新一 (42) <平成30年4月> 教育学修士
	聴覚障害者教育総論			聴覚障害者教育総論			聴覚障害者教育総論			聴覚障害者教育総論			聴覚障害者教育総論	
兼任	講師	任 龍在 (41) <平成30年4月> 博士(障害科学)	兼任	講師	任 龍在 (41) <平成30年4月> 博士(障害科学)	兼任	講師	任 龍在 (42) <平成30年4月> 博士(障害科学)	兼任	講師	任 龍在 (43) <平成30年4月> 博士(障害科学)	兼任	講師	任 龍在 (44) <平成30年4月> 博士(障害科学)
	肢体不自由者教育総論			肢体不自由者教育総論			肢体不自由者教育総論			肢体不自由者教育総論			肢体不自由者教育総論	
兼任	講師	葉 山 宣夫 (50) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	葉 山 宣夫 (50) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	葉 山 宣夫 (51) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	葉 山 宣夫 (52) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	葉 山 宣夫 (53) <平成30年4月> 教育学修士
	病弱教育			病弱教育			病弱教育			病弱教育			病弱教育	
兼任	講師	岡 澤 慎一 (40) <平成30年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	岡 澤 慎一 (40) <平成30年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	岡 澤 慎一 (41) <平成30年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	岡 澤 慎一 (42) <平成30年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	岡 澤 慎一 (43) <平成30年4月> 博士(教育学)
	重複障害教育			重複障害教育			重複障害教育			重複障害教育			重複障害教育	
兼任	講師	小 林 とし子 (64) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	小 林 とし子 (64) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	小 林 とし子 (65) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	小 林 とし子 (66) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	小 林 とし子 (67) <平成30年4月> 教育学修士
	文章表現法 日本文学史A 日本古典文学研究A 日本古典文学研究B			文章表現法 日本文学史A 日本古典文学研究A 日本古典文学研究B			文章表現法 日本文学史A 日本古典文学研究A 日本古典文学研究B			文章表現法 日本文学史A 日本古典文学研究A 日本古典文学研究B			文章表現法 日本文学史A 日本古典文学研究A 日本古典文学研究B	
兼任	講師	小 池 清治 (76) <平成30年4月>												
	日本人の言語史A 日本人の言語史B													
兼任	講師	鈴木 啓子 (56) <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	講師	鈴木 啓子 (56) <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	講師	鈴木 啓子 (57) <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	講師	鈴木 啓子 (58) <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	講師	鈴木 啓子 (59) <平成30年4月> 修士(文学)
	日本文学史D			日本文学史D			日本文学史D			日本文学史D			日本文学史D	
兼任	講師	中 原 健美 (61) <平成30年4月> 学士(文学)	兼任	講師	中 原 健美 (61) <平成30年4月> 学士(文学)	兼任	講師	中 原 健美 (62) <平成30年4月> 学士(文学)	兼任	講師	中 原 健美 (63) <平成30年4月> 学士(文学)	兼任	講師	中 原 健美 (64) <平成30年4月> 学士(文学)
	書道A 書道B			書道A 書道B			書道A 書道B			書道A 書道B			書道A 書道B	
兼任	講師	西 田 重樹 (52) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任	講師	西 田 重樹 (52) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任	講師	西 田 重樹 (53) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任	講師	西 田 重樹 (54) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任	講師	西 田 重樹 (55) <平成30年4月> 博士(文学)
	日本文学史C 歴史学 とらぎ学			日本文学史C 歴史学 とらぎ学			日本文学史C 歴史学 とらぎ学			日本文学史C 歴史学 とらぎ学			日本文学史C 歴史学 とらぎ学	

専任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月・保有学位等>	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月・保有学位等>	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月・保有学位等>	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月・保有学位等>	担当授業科目名
兼任	講師	藤田 祐 (31) <平成30年4月>	日本近代文学研究C 日本近代文学研究D	兼任	講師	藤田 祐 (31) <平成30年4月>	日本近代文学研究C 日本近代文学研究D	兼任	講師	藤田 祐 (31) <平成30年4月>	日本近代文学研究C 日本近代文学研究D	兼任	講師	藤田 祐 (31) <平成30年4月>	日本近代文学研究C 日本近代文学研究D
兼任	講師	守安 敏久 (58) <平成30年4月> 修士(文学)	日本近代文学研究A 日本近代文学研究B	兼任	講師	守安 敏久 (58) <平成30年4月> 修士(文学)	日本近代文学研究A 日本近代文学研究B	兼任	講師	守安 敏久 (58) <平成30年4月> 修士(文学)	日本近代文学研究A 日本近代文学研究B	兼任	講師	守安 敏久 (58) <平成30年4月> 修士(文学)	日本近代文学研究A 日本近代文学研究B
兼任	講師	飯田 和明 (56) <平成30年4月> 修士	国語科教育法1 国語科教育法3	兼任	講師	飯田 和明 (56) <平成30年4月> 修士	国語科教育法1 国語科教育法3	兼任	講師	飯田 和明 (57) <平成30年4月> 修士	国語科教育法1 国語科教育法3	兼任	講師	飯田 和明 (57) <平成30年4月> 修士	国語科教育法1 国語科教育法3
兼任	講師	山中 義夫 (39) <平成30年4月> 修士	国語科教育法2 国語科教育法4	兼任	講師	山中 義夫 (39) <平成30年4月> 修士	国語科教育法2 国語科教育法4	兼任	講師	山中 義夫 (40) <平成30年4月> 修士	国語科教育法2 国語科教育法4	兼任	講師	山中 義夫 (41) <平成30年4月> 修士	国語科教育法2 国語科教育法4
兼任	講師	赤羽 薫 (69) <平成30年4月>	デザイン論	兼任	講師	赤羽 薫 (69) <平成30年4月>	デザイン論	兼任	講師	赤羽 薫 (42) <平成30年4月>	デザイン論	兼任	講師	赤羽 薫 (42) <平成30年4月>	デザイン論
兼任	講師	安齋 薫 (42) <平成30年4月>	英語A3 英語A4	兼任	講師	安齋 薫 (42) <平成30年4月>	英語A3 英語A4	兼任	講師	安齋 薫 (43) <平成30年4月>	英語A3 英語A4	兼任	講師	安齋 薫 (44) <平成30年4月>	英語A3 英語A4
兼任	講師	石川 美和 (53) <平成30年4月>	日本語A1b 日本語A2b 日本語A3b 日本語A4b	兼任	講師	石川 美和 (53) <平成30年4月>	日本語A1b 日本語A2b 日本語A3b 日本語A4b	兼任	講師	石川 美和 (54) <平成30年4月>	日本語A1b 日本語A2b 日本語A3b 日本語A4b 日本語A1a 日本語A2a	兼任	講師	石川 美和 (55) <平成30年4月>	日本語A1b 日本語A2b 日本語A3b 日本語A4b 日本語A1a 日本語A2a
兼任	講師	稲葉 茂 (66) <平成30年4月>	現代社会の諸問題C	兼任	講師	稲葉 茂 (66) <平成30年4月>	現代社会の諸問題C	兼任	講師	稲葉 茂 (67) <平成30年4月>	現代社会の諸問題C	兼任	講師	稲葉 茂 (68) <平成30年4月>	現代社会の諸問題C
兼任	講師	佐藤 淳一 (51) <平成30年4月>	初級フランス語1-1 初級フランス語1-2 初級フランス語2-1 初級フランス語2-2 中級フランス語1 中級フランス語2	兼任	講師	佐藤 淳一 (51) <平成30年4月>	初級フランス語1-1 初級フランス語1-2 初級フランス語2-1 初級フランス語2-2 中級フランス語1 中級フランス語2	兼任	講師	佐藤 淳一 (52) <平成30年4月>	初級フランス語1-1 初級フランス語1-2 初級フランス語2-1 初級フランス語2-2 中級フランス語1 中級フランス語2	兼任	講師	佐藤 淳一 (53) <平成30年4月>	初級フランス語1-1 初級フランス語1-2 初級フランス語2-1 初級フランス語2-2 中級フランス語1 中級フランス語2
兼任	講師	渋谷 一夫 (64) <平成30年4月>	科学技術論	兼任	講師	渋谷 一夫 (64) <平成30年4月>	科学技術論	兼任	講師	渋谷 一夫 (65) <平成30年4月>	科学技術論	兼任	講師	渋谷 一夫 (65) <平成30年4月>	科学技術論
兼任	講師	杉山 晴信 (60) <平成30年4月>	英語C1 英語C2	兼任	講師	杉山 晴信 (60) <平成30年4月>	英語C1 英語C2	兼任	講師	杉山 晴信 (61) <平成30年4月>	英語C1 英語C2	兼任	講師	杉山 晴信 (61) <平成30年4月>	英語C1 英語C2
兼任	講師	鈴木 綾子 (63) <平成30年4月>	日本語A3a 日本語A4a 日本語B1 日本語B2	兼任	講師	鈴木 綾子 (63) <平成30年4月>	日本語A3a 日本語A4a 日本語B1 日本語B2	兼任	講師	鈴木 綾子 (64) <平成30年4月>	日本語A3a 日本語A4a 日本語B1 日本語B2 日本語B3 日本語B4	兼任	講師	鈴木 綾子 (65) <平成30年4月>	日本語A3a 日本語A4a 日本語B1 日本語B2 日本語B3 日本語B4
兼任	講師	スミス クリス (38) <平成30年4月>	英語B3 英語B4 英語D2	兼任	講師	スミス クリス (38) <平成30年4月>	英語B3 英語B4 英語D2	兼任	講師	スミス クリス (39) <平成30年4月>	英語B3 英語B4 英語D2	兼任	講師	スミス クリス (40) <平成30年4月>	英語B1 英語B2 英語B3 英語B4
兼任	講師	宋 美 妍 (54) <平成30年4月>	初級韓国語1-1 初級韓国語1-2 初級韓国語2-1 初級韓国語2-2 中級韓国語1 中級韓国語2	兼任	講師	宋 美 妍 (54) <平成30年4月>	初級韓国語1-1 初級韓国語1-2 初級韓国語2-1 初級韓国語2-2 中級韓国語1 中級韓国語2	兼任	講師	宋 美 妍 (55) <平成30年4月>	初級韓国語1-1 初級韓国語1-2 初級韓国語2-1 初級韓国語2-2 中級韓国語1 中級韓国語2	兼任	講師	宋 美 妍 (56) <平成30年4月>	初級韓国語1-1 初級韓国語1-2 初級韓国語2-1 初級韓国語2-2 中級韓国語1 中級韓国語2
兼任	講師	田中 賢太郎 (67) <平成30年4月>	哲学	兼任	講師	田中 賢太郎 (67) <平成30年4月>	哲学	兼任	講師	田中 賢太郎 (67) <平成30年4月>	哲学	兼任	講師	田中 賢太郎 (67) <平成30年4月>	哲学
兼任	講師	三井 美紀 (58) <平成30年4月>	憲法入門	兼任	講師	三井 美紀 (58) <平成30年4月>	憲法入門	兼任	講師	三井 美紀 (59) <平成30年4月>	憲法入門	兼任	講師	三井 美紀 (60) <平成30年4月>	憲法入門

専任・兼任・兼任の別	氏名 (生 年 月) <就任(予定)年月 保有学位等>	職名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (生 年 月) <就任(予定)年月 保有学位等>	職名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (生 年 月) <就任(予定)年月 保有学位等>	職名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (生 年 月) <就任(予定)年月 保有学位等>	職名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (生 年 月) <就任(予定)年月 保有学位等>	職名
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	渡部 文字 (50) <平成30年4月>	講師 英語B1 英語B2 英語B3 英語B4	兼任	渡部 文字 (50) <平成30年4月>	講師 英語B1 英語B2 英語B3 英語B4	兼任	渡部 文字 (51) <平成30年4月>	講師 英語B1 英語B2 英語B3 英語B4	兼任	渡部 文字 (52) <平成30年4月>	講師 英語B1 英語B2 英語B3 英語B4 英語A1 英語A2 英語A3 英語A4	兼任	渡部 文字 (53) <平成30年4月>	講師 英語B1 英語B2 英語B3 英語B4 英語A1 英語A2 英語A3 英語A4
							川口 康子 (50) <令和元年4月>	講師 英語A1 英語A2 英語A3 英語A4	兼任	川口 康子 (50) <令和元年4月>	講師 英語A1 英語A2 英語A3 英語A4	兼任	川口 康子 (51) <令和元年4月>	講師 英語A1 英語A2 英語A3 英語A4
							日暮 真穂 (34) <令和元年4月> 修士(教育学)	講師 知能障害の認知心理学 知能障害児・若年発達心理学 言語障害児	兼任	日暮 真穂 (35) <令和元年4月> 修士(教育学)	講師 知能障害の認知心理学 知能障害児・若年発達心理学 言語障害児	兼任	日暮 真穂 (47) <令和元年4月> 修士(教育学)	講師 知能障害の認知心理学 知能障害児・若年発達心理学 言語障害児
兼任	黒田 誠介 (45) <平成30年4月> 修士(教育学)	講師 社会科教育法(初等)	兼任	黒田 誠介 (44) <平成30年4月> 修士(教育学)	講師 社会科教育法(初等)	兼任	黒田 誠介 (45) <平成30年4月> 修士(教育学)	講師 社会科教育法(初等)	兼任	黒田 誠介 (46) <平成30年4月> 修士(教育学)	講師 社会科教育法(初等)	兼任	黒田 誠介 (47) <平成30年4月> 修士(教育学)	講師 社会科教育法(初等)
兼任	木田 剛 (78) <令和元年4月> 博士(理学)	講師 環境論	兼任	木田 剛 (79) <令和元年4月> 博士(理学)	講師 環境論	兼任	木田 剛 (80) <令和元年4月> 博士(理学)	講師 環境論	兼任	木田 剛 (81) <令和元年4月> 博士(理学)	講師 環境論			
							小林 千枝子 (58) <令和2年4月> 修士(応用化学)	講師 教育の制度と社会(小・中・高) 教育方法論(小・中・高) 教育心理論(小・中・高) 特別指導要領(小・中・高)	兼任					
							藤本 一男 (85) <令和2年4月> 修士(社会学)	講師 キャリアデザイン1 専門演習A・C	兼任					
							影山 耀一 (59) <令和元年4月>	講師 外国語活用の指導法(初等)	兼任	影山 耀一 (59) <令和元年4月>	講師 外国語活用の指導法(初等)	兼任	影山 耀一 (59) <令和元年4月>	講師 外国語活用の指導法(初等)
							福田 幸之 (57) <令和元年4月>	講師 現代社会の諸問題A	兼任					
							ギャビン・ジェームス (42) <令和2年4月>	講師 英語B1 英語B2	兼任	ギャビン・ジェームス (43) <令和2年4月>	講師 英語B1 英語B2	兼任	ギャビン・ジェームス (43) <令和2年4月>	講師 英語B1 英語B2
							浜花 寛 (80) <令和2年4月>	講師 算数科教育法(初等)	兼任	浜花 寛 (81) <令和2年4月>	講師 算数科教育法(初等)	兼任	浜花 寛 (81) <令和2年4月>	講師 算数科教育法(初等)
							白鳥 真輝 (38) <令和元年4月> 博士(文学)	講師 日本文学史D	兼任	白鳥 真輝 (37) <令和元年4月> 博士(文学)	講師 日本文学史D	兼任	白鳥 真輝 (37) <令和元年4月> 博士(文学)	講師 日本文学史D
							梶井 豊子 (57) <令和2年4月>	講師 産科教育法(初等)	兼任	梶井 豊子 (58) <令和2年4月>	講師 産科教育法(初等)	兼任	梶井 豊子 (58) <令和2年4月>	講師 産科教育法(初等)
							春日 正男 (74) <令和2年4月>	講師 ともぎ学	兼任	春日 正男 (75) <令和2年4月>	講師 ともぎ学	兼任	春日 正男 (75) <令和2年4月>	講師 ともぎ学
							阿部 秀男 (82) <令和2年4月>	講師 国史学	兼任					
									兼任	市田 浩雄 <令和3年4月>	講師 現代社会の諸問題A	兼任	市田 浩雄 <令和3年4月>	講師 現代社会の諸問題A

(注) ・ 報告年度の9月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任・兼任教員を含む。)を赤字で記入してください。

その上で、**置買時又は届出時から変更となっている情報は赤字としてください。**

・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。

・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。

・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。

・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、読めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・小山さなえ兼担教授就任辞退。他の兼担教員が担当可能。
- ・菅谷美沙都兼担講師就任辞退。他の兼担教員が担当可能。
- ・小池清治兼担講師就任辞退（本人死亡）。後任未定。
- ・田中見太郎兼担講師就任辞退。後任未定。
- ・三井英紀兼担講師就任辞退。池村好道兼担講師に担当者変更。

【令和元年度】

- ・玉城要専任教授 プレインターシップ、卒論指導演習1、2 他の兼担教員が担当可能。
- ・池上啓専任教授 日本語教育概論 他学科設置科目のため削除（平成30年度記載誤り）
- ・小林千枝子専任教授 専門演習B・D 他の兼担教員が担当可能。
- ・高浜浩二専任教授 プレインターシップ 他の兼担教員が担当可能。
- ・大橋幸雄特任教授 プレインターシップ担当追加。
- ・木村真人特任教授 プレインターシップ、現代社会の諸問題B、担当追加。
- ・中山緑朗特任教授 日本語A1a、A2a石川美和兼担講師へ担当変更。B3、B4鈴木綾子兼担講師へ担当変更。
- ・野村勝彦専任特任教授 特別支援教育基礎 担当追加。（設置時より科目担当あり 平成30年度記載誤り）
- ・村松和彦専任特任教授 デザイン論 赤羽薫兼任講師辞任により、担当。
- ・木村克彦兼担教授 英語A1、A2、A3、A4、B1、B2 他の兼担教員、兼任教員が担当可能。
- ・高畑哲男兼担教授 辞任により他の兼担教員、兼任教員が担当。英文法は他学科の授業科目のため削除（平成30年度記載誤り）
- ・田所撰寿兼担教授 プレインターシップ 他の兼担教員が担当可能。
- ・原田明子兼担教授 英語表現法 他学科設置科目のため削除（平成30年度記載誤り）。小学校外国語 担当追加（設置時より担当科目あり 平成30年度記載誤り）
- ・山尾貞則兼担教授 プレインターシップ 他の兼担教員が担当可能。
- ・日高茂輔兼担教授 兼任講師へ変更。基礎ゼミナール1、専門演習B・D、卒論指導演習1、2、インターンシップ、特別支援学校教育実習事前事後指導は他の専任、兼担教員が担当可能。
- ・齋藤蘭兼担教授 基礎ゼミナール1、プレインターシップ 他の兼担教員が担当可能。基礎ゼミナール2担当追加。
- ・杉原聡子兼担教授 基礎ゼミナール2、他の兼担教員が担当可能。基礎ゼミナール1担当追加。
- ・関根正敏兼担教授 辞任により他の兼担教員が担当。
- ・那須野公人兼担教授 辞任により他の兼担教員が担当。
- ・山下裕介兼担教授 現代社会の諸問題C担当追加。
- ・福田将史兼担教授 スポーツ科学実技A1担当のため追加。
- ・小林育夫兼担教授 プレインターシップ、スポーツ科学実技C担当のため追加。
- ・杉本育夫兼担特任教授 プレインターシップ担当のため追加。
- ・周楊華兼担特任教授 プレインターシップ担当のため追加。
- ・中川仁美兼担特任教授 プレインターシップ担当のため追加。
- ・石川智兼担特任准講師 プレインターシップ担当のため追加。
- ・今宿裕兼担特任准講師 プレインターシップ担当のため追加。
- ・齊藤麗兼担特任准講師 プレインターシップ、スポーツ科学実技A1、A2担当のため追加。
- ・赤羽薫兼担講師 辞任により、村松和彦専任特任教授へ変更。
- ・石川美和兼担講師 日本語A1a、A2a担当追加。中山緑朗特任教授から変更。
- ・鈴木綾子兼担講師 日本語B3、B4担当追加。中山緑朗特任教授から変更。
- ・川口淑子兼担講師 高畑哲男兼担教授（辞任）、木村克彦兼担教授から担当変更。
- ・太田周兼担講師 環境論担当追加（設置時より科目担当あり 平成30年度記載誤り）
- ・熊田禎介兼担講師 社会科教育法（初等）担当追加（設置時より科目担当あり 平成30年度記載誤り）

【令和2年度】

- ・玉城要専任教授 文章表現法担当追加（令和元年度記載漏れ）
- ・小林千枝子専任教授 兼任講師へ変更。教職論（小・中・高）は川原准教授へ担当変更。
- ・高柳秀史専任教授 プレインターシップ担当追加。
- ・高浜浩二専任教授 専門演習A/Cから専門演習B/Dへ担当科目変更
- ・川原健太郎専任准教授 令和元年度就任
- ・大橋幸雄専任特任教授 国語科教育法1、2担当追加
- ・野村勝彦専任特任教授 卒論指導演習1、2担当追加
- ・村松和彦専任特任教授 卒論指導演習1、2担当追加
- ・原田明子教授 英語クラス増設の都合により英語E1、E2非開講。
- ・木村雅史兼担教授 令和元年度就任
- ・藤本一男兼担教授 兼任講師へ変更。コンピュータリテラシー1は木村雅史兼担教授へ担当変更。
- ・山尾貞則兼担教授 専門演習A/C担当追加。
- ・村田明日香兼担教授 令和元年度就任（令和元年度記載漏れ）
- ・杉原聡子兼担講師 産休によりほかの兼担教員が担当
- ・クイン・マシュー 英語B1、B2クラス増設の都合により英語D1非開講
- ・荻原明信兼担教授 コンピュータリテラシー2追加（設置時より科目担当あり 平成30年度記載漏れ）
- ・趙鐘吉兼担教授 プレインターシップ担当追加。
- ・福田将史兼担教授 スポーツ科学実技A2担当のため追加。
- ・前橋明朗兼担教授 インターンシップ担当追加。（設置時より科目担当あり 平成30年度記載漏れ）
- ・荒木宏兼担教授 インターンシップ担当追加（令和元年度記載漏れ）
- ・周楊華兼担教授 特任准教授から准教授へ職位変更
- ・中川仁美兼担教授 特任准教授准教授へ職位変更
- ・石川智兼担特任講師 特任講師から講師へ職位変更
- ・石川順章兼担特任講師 プレインターシップ担当のため追加。
- ・齋藤麗兼担特任講師 特任講師から講師へ職位変更
- ・加藤健司兼担講師 日本語表現法1、2担当追加。（設置時より科目担当あり 平成30年度記載漏れ）
- ・長香織兼任講師 担当辞退。樽井圭子兼任講師（令和2年度就任）へ変更。
- ・大根田裕兼任講師 担当辞退。浪花寛兼任講師（令和2年度就任）へ変更。
- ・塚本麻央兼任講師 担当辞退。後任兼担講師採用予定。
- ・雁丸新一兼任担講師 担当辞退。後任兼担講師採用予定。
- ・鈴木啓子兼任講師 担当辞退。白鳥克弥兼任講師（令和2年度就任）変更。
- ・西田直樹兼任講師 歴史学 阿部兼担講師へ変更。文学担当追加。
- ・渋谷一夫特任講師 担当辞退。後任未定
- ・杉山晴信特任講師 担当辞退（体調不良）。後任未定
- ・スミス・クリス兼任講師 英語B1、B2クラス増設の都合により英語D2非開講
- ・渡部文子兼任講師 英語B1～B4 別の兼担教員が担当。英語A1～A4担当。
- ・川口淑子兼任講師 英語A3、A4 クラス増設の都合により担当追加。
- ・影山昭一兼任講師 外国語活動の指導法（初等）原田兼担教授から変更。
- ・福田善之兼任講師 現代社会の諸問題A 担当。
- ・ギャビン・ジェームズ特任講師 英語B1、B2担当
- ・春日正男兼任講師 とちぎ学 クラス増設により担当

【令和3年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・渡邊専任教授 教職実践研究(小中高) ほかの専任教授へ変更 ・玉城要専任教授 文書表現法、キャリアデザイン1、日本語表現法1、日本語表現法2 担当追加 コンピュータリテラシー1担当者変更のため削除 ・池上啓専任教授 コンピュータリテラシー1 担当者変更のため削除 ・高柳秀史専任教授 プレインターシップ担当追加 ・西谷健次専任教授 中学校教育実習 ほかの専任教授へ担当変更のため削除 ・高浜浩二専任教授 専門演習B・D プレインターシップ ほかの専任教授へ担当変更のため削除 知的障害児教育法 担当追加 ・川原健太郎専任准教授 令和元年度就任 ・小橋幸雄専任特任教授 プレインターシップ、国語科教育法、国語科教育法3、中学校教育実習 担当追加 ・木村直人専任特任教授 プレインターシップ、現代社会の諸問題C 担当追加 ・中山緑朗専任特任教授 令和2年度辞任 担当削除 ・野村勝彦専任特任教授 知的障害児教育法1、特別支援学校教育実習事前事後指導、特別支援学校教育実習、特別支援教育基礎(小中高)、卒論指導演習1、卒論指導演習2 担当者変更により削除 ・村松和彦専任特任教授 デザイン論担当追加。卒論指導演習1、卒論指導演習2、ほかの担当者へ変更のため削除 ・小黒浩二兼担教授 情報サービス論、情報サービス演習B 担当追加 ・木村克彦兼担教授 英語A1、A2、A3 A4 英語B1、B2 担当者変更により削除 ・田所根寿兼担教授 プレインターシップ 担当者変更により削除 ・原田明子兼担教授 外国語活動に関する指導法(初等)、卒論指導演習1、卒論指導演習2担当者変更のため削除。小学校外国語(英語)担当追加。 ・齋藤蘭兼担教授 令和2年度辞任のため担当科目削除 ・村田明日香兼担准教授 令和元年度就任 ・木村雅史兼担准教授 令和2年度就任 ・下瀬川陽兼担講師 令和3年度就任 ・杉原聡子兼担講師 専門演習A・D、プレインターシップ、卒論指導演習1、卒論指導演習2 担当者変更のため削除、専門演習B・D担当追加 ・ケイン・マシュー兼担特任講師 英語B1 B2クラス増設の都合により英語D1非開講 ・相馬聡兼担講師 令和元年度 講師へ昇格(令和元年度、令和2年度 記載誤り) ・秋原明信兼担教授 コンピュータリテラシー2追加 ・趙鐘吉兼担教授 プレインターシップ担当追加 ・福田将史兼担教授 スポーツ科学実技A2担当のため追加 ・前橋明朗兼担教授 インターシップ担当追加。 ・荒木宏兼担教授 インターシップ担当追加 ・山下裕介兼担准教授 現代社会の諸問題C、プレインターシップ 担当追加 ・小林育斗兼担准教授 令和2年度辞任のため担当科目削除 ・杉本育夫兼担特任教授 令和元年度就任 ・岡橋華兼担准教授 令和2年度辞任のため担当科目削除 ・中川仁美兼担准教授 令和元年度就任 ・石川智兼担講師 令和元年度就任 プレインターシップ担当追加 ・石川順章兼担講師 令和2年度就任、特任講師から講師へ職位変更 ・今宿裕兼担講師 令和2年度就任、特任講師から講師へ職位変更 ・斉藤麗兼担准教授 令和元年度就任、講師から准教授へ職位変更 ・加藤健司兼任講師 令和2年度辞任のため担当科目削除 ・西田直樹兼任講師 文学、マスコミ論 担当追加 ・石田美和兼任講師 日本語A1a、A2a 担当追加 ・スミス・クリス兼任講師 英語B1、B2クラス増設の都合により英語D2非公開 ・渡部文子兼任講師 英語B1～B4 別の兼担教員が担当。英語A1～A4担当。 ・川口淑子兼任講師 英語A3、A4 クラス増設の都合により担当追加。 ・太田周兼任講師 担当辞任 後任未定 ・小林千枝子兼任講師 辞任 ほかの専任及び兼担が担当 ・藤本一男兼任講師 担当辞任 後任専任教授が担当 ・福田善之兼任講師 担当辞任 後任兼担講師 市田治雄が担当 ・阿部邦男兼任講師 担当辞任 後任兼担講師 西田直樹が担当 ・市田治雄兼任講師 令和3年度就任

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A/C教員審査)を受けてください。**A/C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書(A/C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
6	3
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
13	1	0	0	14	0	14	1	0	0	15	0
(15)	(1)	(0)	(0)	(16)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
14	1	0	0	15	0	14	1	0	0	15	0
[1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	6	6
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{15}{14} = \boxed{107.14} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{6}{15} = \boxed{40} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況 該当なし

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	特任教員	中山 緑朗	R3.3	必修	日本語表現法 1	②	R3.3.31付け自己都合のため辞任 (R3)			
				選択	日本語表現法 2	②				
				必修	小学校国語（書写を含む）	②				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	2	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	0	科目	計	3	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	2	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	0	科目	計	3	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{14} = \boxed{7.14} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況 該当なし

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時 (平成30年)	該当なし 留意事項		履行中
設置計画履行状況調査時 (平成30年)	人間文化学部発達教育学科において、入学定員未充足の改善に努めること。 指摘事項(改善)		履行中 令和2年度の入学定員超過率0.8を目指す。教育内容の「見える化」をさらに図り、教職実践センターの実務教員や学部長によるオープンキャンパスや各種説明会、高等学校訪問などにより、学生と保護者への直接情報提供を進める。
設置計画履行状況調査時 (令和元年)	定員規程に定める退職年齢を超える専任職員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。 入学定員未充足の改善に努めること。 指摘事項(改善)	平成30年度の入学定員超過率が0.66であったが、平成31年度は0.74まで改善がされた。 配慮を要する児童生徒問題に対応できる実践的指導力や専門的力量育成を特徴とした教職実践センターの本格稼働の積極説明を行った。	履行中 令和2年度の入学定員超過率0.8を目指す。教育内容の「見える化」をさらに図り、教職実践センターの実務教員や学部長によるオープンキャンパスや各種説明会、高等学校訪問などにより、学生と保護者への直接情報提供を進める。
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。 指摘事項(改善)	退職年齢を超える者の後任人事については、学科において、当該科目分野を担当するにふさわしい教員の選考を行い、年齢構成のバランスを考慮した人材の確保に努めている。 また、令和2年4月1日付けにて、中堅教員を採用し、教員組織編成の適正化を図った。 令和元年度の平均入学定員超過率が0.74であったが、令和2年度平均入学定員超過率は0.82まで改善がされた。令和2年度入学定員超過率は、1.08となった。 配慮を要する児童生徒問題に対応できる実践的指導力や専門的力量育成を特徴とした教職実践センターの本格稼働の積極説明を行った。	履行中 教育内容の「見える化」をさらに図り、教職実践センターの実務教員や学部長によるオープンキャンパスや各種説明会、高等学校訪問などにより、学生と保護者への直接情報提供を進める。
設置計画履行状況調査時 (令和3年)	定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。 指摘事項(改善)	教育学等を担当する教員9名の内、令和2年度に定年退職1名に対して45歳を採用し(年齢平均56.4歳)、教育実習を担当する教員6名は教職経験者(年齢平均67.8歳)を主に配置し実務実習を強化している。	履行中 定年退職する教員の補充として、中等教育科目、特別支援教育科目、初等教育科目(教科)等を担当する複数人の教員採用人事を計画中である。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<人間文化学部 発達教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部FD・SD委員会規程</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 別紙1のとおり</p> <p>c 委員会の審議事項等 別紙1のとおり</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 別紙1のとおり</p> <p>b 実施方法 別紙1のとおり</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 別紙1のとおり</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 別紙1のとおり</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 別紙1のとおり</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 別紙1のとおり</p>
--

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙2のとおり

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成27年6月 公表
- ・令和2年5月31日公表予定

b 公表方法

- ・ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に財団法人日本高等教育評価機構の評価を受けるべく計画中です。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [(有) ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [令和3年6月中予定]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

①実施体制

a 委員会の設置状況 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 FD・SD 委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） c 委員会の審議事項等

2020 年度 FD・SD 委員会会議の開催状況

第 1 回 FD・SD 委員会 & 教育開発セクション合同会議	2020 年 6 月 3 日(水)	・授業評価アンケートの実施について ・国語基礎力調査の実施について
第 2 回 FD・SD 委員会 & 教育開発セクション合同会議	2020 年 10 月 28 日(水)	・全学 FD 研修について ・2019 年度授業評価アンケート結果について ・ベストティーチャー賞について ・2019 年度研修一覧について ・今後の FDSD 活動について
第 3 回 FD・SD 委員会 & 教育開発セクション合同会議	2020 年 12 月 9 日(水)	・後期授業アンケートについて ・12 月 16 日(水)開催 FD 研修(『監査意見書を踏まえた本学の課題について』)について ・保存動画視聴型研修について ・今後の FDSD 活動について

*委員の負担軽減のため、報告書、情報交換等は、原則メーリングリストにて実施

*公務出張等やむをえない場合を除き、全委員出席（オンライン参加有）

②実施状況

a 実施内容 b 実施方法 c 開催状況（教員の参加状況含む）

2020 年度 FD 及び SD 研修 実施一覧

日時	事業名	概要
2020 年 4 月 8 日	FD・SD 研修会 たのめーる操作講習	購買管理システムたのめーるの操作講習
2020 年 4 月 13 日	SD 研修 たのめーる操作講習(一般職員向け)	購買管理システムたのめーるの操作講習
2020 年 4 月 14 日	SD 研修会 たのめーる操作講習(購入担当者向け)	購買管理システムたのめーるの操作講習

2020年4月14日	SD研修会 購買管理システムたのめーるの操作講習 (承認担当者向け)	購買管理システムたのめーるの操作講習
2020年7月3日	SD研修会 新任教職員集合研修	学校法人船田教育会、管理運営体制、就業規則、職場内ルール等について
2020年7月9日	SD研修会 キャンパスプランポータルデモンストレーション及び勉強会	次期 LMS(Learning Management System)の検討について(NTT 東日本)
2020年7月20日～ 7月21日	SD研修会 コンプライアンスについて 経営・財務状況について その他	「コンプライアンス」、「ハラスメント」、「情報セキュリティ」、「就業規則」、「サービス」等について
2020年9月16日	SD研修会 コンプライアンスについて 経営・財務状況について その他	「コンプライアンス」、「ハラスメント」、「情報セキュリティ」、「就業規則」、「サービス」等について
2020年9月28日	FD・SD研修会(外部) 宇都宮市創造都市研究センター 第4回 FD・SD研修会	「大谷石文化と創造都市宇都宮の形成について」
2020年11月11日	SD研修会 新任教職員研修	学校法人船田教育会、管理運営体制、就業規則、職場内ルール等について
2020年11月25日	FD研修会 「遠隔授業」の質的向上を目指したFD研修会	「本学における遠隔授業の実態」 発表者 西谷 健次 先生 「遠隔授業の実践例」 発表者 高浜 浩二 先生 発表者 花田 千絵 先生
2020年12月16日	FDSD研修会 「監査意見書」を踏まえた本学の課題について	本学の運営状況等について

2020年12月24日 ～2021年1月8日	FSDS 研修会 「障害のある学生の支援について」	「障害のある学生の支援について」 発表者 兪 幃蘭 先生
2021年3月24日	新学習支援システム「WebClass」 の操作方法説明会	「WebClass」の基本的な操作方法の説明について 説明者 日本データパシフィック

d 実施結果を踏まえた授業改善への取り組み状況

- ・学生による「授業アンケート」の教員個人データ公開による意識向上
- ・「授業評価アンケート」による「ベストティーチャー」の表彰
- ・「遠隔授業」に関する研修会の実施によりオンライン授業の質的向上

③学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業評価アンケート

実施期間	事業名	概要
2020年7月27日～8月 7日	2020年度前期	学内情報システム(テクミン)によるアンケート方式 設問数 15 問 集計及び印刷は本学にて実施
2021年1月5日～1月 18日	2020年度後期	学内情報システム(テクミン)によるアンケート方式 設問数 16 問 集計及び印刷は本学にて実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・学生による「授業評価アンケート」の集計結果（個人データ）を学生に開示
ファイルを図書館及び、情報センター、教務課カウンターへ設置し、自由閲覧とする。
- ・全体集計結果を大学ホームページへ掲載。

<http://www.sakushin-u.ac.jp/ec/page.php?id=553#cttl-inner>

設置の趣旨・目的の達成状況

(1) 設置の趣旨

人間文化学部は平成14年の学部設置当初より、学外から「様々な領域があるのは分かるが、何を軸にして学部の教育を行っているのか外から見えにくい」という指摘を受けてきた。「人間文化学部」という名称、また「心理学、社会学、言語文化の三領域から人間と文化を複合的に研究し、地域社会に存在する様々な課題を見つけ、解決できる力を持った人材を養成する」という学部の教育理念も、学外からの「総花的である」、「抽象的である」という誹りを免れ得なかった。とは言え、内部の教員は学生の教育に対して決して消極的ではなかった。1期生の卒業にあわせて、栃木県内唯一の心理学系大学院を設置し、臨床心理士養成に取り組み、平成24年には小学校教員養成に特化した「発達教育専攻」を新たに設置し、従来の「心理学、社会学、言語文化」領域を「人間文化専攻」とした。大学院に進学した卒業生の中からは臨床心理士の資格を取得した学生も多数現われ、本採用・臨時採用も含めて教壇に立つ卒業生も輩出している。また1期生は30代半ばとなり、就職したそれぞれの場で中核を担いつつある。

学部の教育内容や方法に誤りが無かったという自負はともかく、「良いものは自ずと伝わる」「分る人には分る」といった態度はやや傲慢であったと反省せざるを得ない。学部の教育・研究内容を分かりやすく学外に伝えるという営為は、高校生を中心とした学習の機会と場を求めている人々へその選択肢と可能性を示し、提供する重大な責務である点を忘れてはいけない。

そこで、学部の教育内容を学外へ分かりやすく伝える、いわゆる「見える化」を図るために、平成28年度には「人間文化専攻」を「心理コミュニケーション専攻」へと名称を改め、「発達教育専攻」とあわせて、教員養成と心理学を中核とした学部であると、強調するようにした。あわせて、従来の「社会学・言語文化」の二領域についても「コミュニケーション」という視点に立って、大幅な開講科目の整理・精選化を果たした。今回の「発達教育学科」「心理コミュニケーション学科」という2学科体制への改組はその「見える化」を強化発展させるものである。

「発達教育学科」においては、小学校を中核として、①小学校教諭一種免許状、②小学校教諭一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状、③小学校教諭一種免許状と中学校・高等学校教諭一種免許状(国語)を取得し、地域社会の教育に貢献する人材の育成に注力する。「心理コミュニケーション学科」においては、従来の臨床心理士とあわせて、今後国家資格化される公認心理師の受験資格取得を目指した教育に注力する。さらに心理学とコミュニケーションツールとしての「社会学・言語文化」を学んだ学生を、地域のソーシャルサービス(福祉分野に限らず、公務員、一般企業も含めたより広い意味で地域貢献が果たせる)を担える人材として育成する。

現在、栃木県央及び県北地域で小学校の教員養成課程は宇都宮大学教育学部にしか

く、地方私立大学としての本学に発達教育学科を設置し小学校教諭一種の免許状を取得できるようにすることは地域社会の要望に応えるものとなる。また、人間文化学部は特別支援学校教諭一種免許状が取得できる栃木県内の数少ない大学学部の一つであり、今日需要が高まっている障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズにこれまで積極的に対応し、地域社会に貢献してきている。

また、前述の如く、人間文化学部は栃木県内唯一の心理学系大学院を設置し、臨床心理士養成に取り組み、地域社会からその教育成果について認知されている。現代社会において学校、職場、家庭、地域など、さまざまな場面で「心の問題」を抱える人が多くなっている。臨床心理士のみならず、国家資格化される公認心理師など、いわゆる「心理職」の社会的ニーズは今後ますます高まっていく。心理コミュニケーション学科は、そのような社会の要請に応える人材育成の一翼を担うものである。

(2) 養成する人間像と修得させる能力

新たに改組する人間文化学部（発達教育学科・心理コミュニケーション学科）は、自ら主体的に学び、自主的に自らを律して行動できる人材を育成することを教育理念としている。その実現に向け以下の能力を身につけ、「共通教育科目」及び「専門教育科目」に関する単位を修得した学生には、卒業を認定し、学士（人間文化学）の学位を与える。また、免許や資格の取得を希望する学生には、小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状（知的障害に関する教育の領域）、中学校教諭一種免許状（国語）、高等学校教諭一種免許状（国語）、司書教諭資格、図書館司書、認定心理士、公認心理師受験資格、ITパスポートなどの取得を積極的に支援する。

(3) 令和3年度入学者数と今後の課題

令和2年度入学者数は、人間文化学部全体では81名と昨年比△30であった。5月現在の学科別の在籍者数としては、発達教育学科31名（入学定員50名、充足率62%）、心理コミュニケーション学科50名（入学定員50名、充足率100%）である。令和2年度には二学科ともに入学定員を充足（充足率114%）できたものの、令和2年度に実施された入試においては様々な社会情勢の影響もあり低調に終わってしまった。ただ社会情勢による影響はどの大学においても同じであるわけなので、それを言い訳にせず、今後も、教育内容をより明確に伝え続け、就職率、教員採用試験の合格率を少しでも上げ、発達教育学科、心理コミュニケーション学科ともに、目的意識の高い入学生の増加につけていきたい。

入学後は学生へのサポートとして、資格の取得を支援し、就職率の向上を目指す。あわせて、入学後に志向が変わってくる学生に対しても、本人にあった卒業までの学習の支援、就職の支援に努める。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続くものと予測される。一時期の混乱は見られなくなったものの、いまだ学生、教職員ともに不安定な状態であるのは否めない。こういう時期だからこそ、これまで以上に個々の学生と教員・大学と

のつながりを密にし、学習や学生生活を支援できるように努める。